



民話を纏って生きる

■ Concept

長和町の人々に寄り添い生きてきた民話を、人が纏い、生きていく。

民話を、普段使いもできるようなアクセサリーにして身近に置く。長和町に住む人以外にも興味を持ってもらい、手にとってもらおう。アクセサリーをきっかけに長和町の民話、そして長和町を知ってもらおう。

■ Target

20代～30代の女性

■ Brand Name

纏という字には、まつわる という意味がある。まつわる とは絶えずそばにいるという意味である。


その意味の通りに、誰かの人生に絶えず寄り添うようなアクセサリーにしたいという思いを込めて、『纏』という名前にした。

ロゴマークの唐草模様はどこまでも伸びていくツタの様子を描いた物で、繁栄や長寿を意味する吉祥文様だ。今まで語り継がれてきた民話をこれからも語り継いで行きたいという願いを込めて、唐草模様を採用した。



作品の全体像と、箱のデザイン。
箱は桐箱、クッションは和紙と綿でできている。和紙は長和町のものを使うことで、より親しみやすくなってもらう。

民話内に登場する、明神様と八幡様が足をひっかけた夕顔の蔓をモチーフにした指輪と、そんな二柱を助けるために村人があげた灯明をモチーフにしたピアス。
夕顔の花は、レジンでコーティングされた和紙を使用している。

 お女郎池



お女郎池の緑に濁った池の色、そしてかつて女郎だった赤い腹のいもりをモチーフにしたピアスとネックレス。
ストーンなどは必要最低限にして、落ちついた物にした。

 火の玉




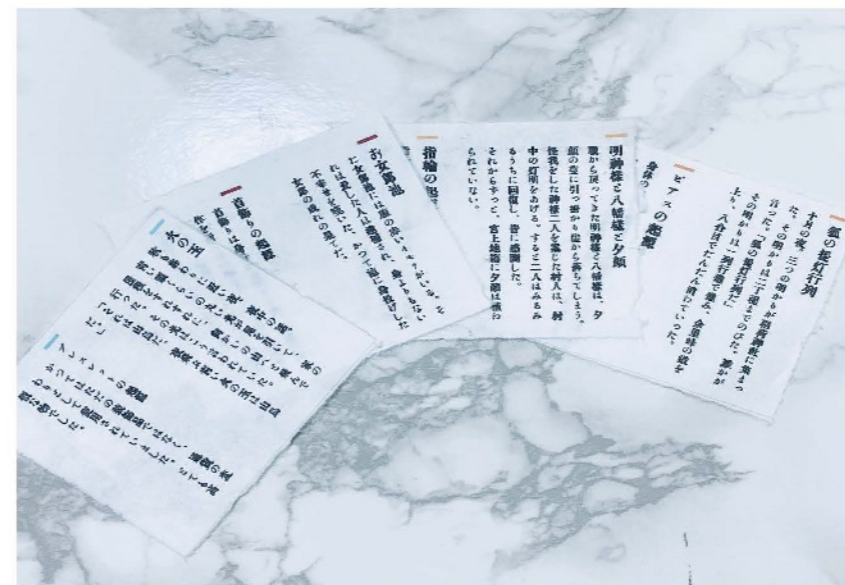
作中の『私』が目にした青い火が山へ飛んでいく情景と、「夜飛ぶ青い火の玉は山鳥だ」という言葉をモチーフにしたバックティアラとブレスレット。
三種類の細かいストーンと、反射しやすい大きなストーンをを使用している。

 狐の提灯行列



神社の鳥居の赤い色、そしてそこへ向かう狐と提灯の明かりをモチーフにしたピアスとチョーカー。チョーカーについているストーンは、上にいくにつれて暗くなっている明かりをイメージして暗い赤を使用した。

 リーフレット



各アクセサリーには和紙で作ったリーフレットをつける。このリーフレットには各民話の概要・アクセサリーの起源を記載し、民話に親しんでもらうと同時にアクセサリーの起源も知ってもらえるようになっている。